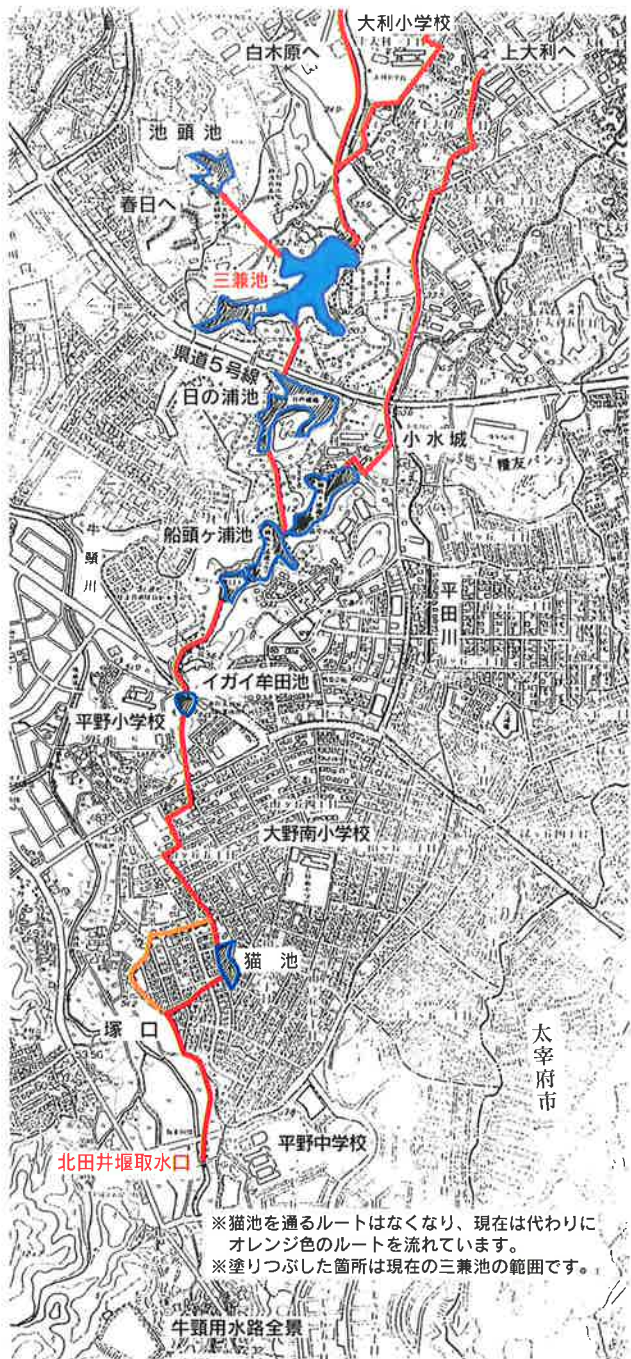


うしくびようすいろ きただいぜき  
**牛頸用水路 (北田井堰から引いた用水路)**

大野城市教育委員会



**用水路 (左図全景)** 牛頸の北田井堰から上大利の三兼池を経て春日の池頭池まで4ヶ所のトンネル (全長1.8km) を含む、全長2.8kmにわたる用水路があります。

江戸時代、白木原村や上大利村、春日村の近くにある川は田畑より低い位置を流れていたため、田畑に水を引くことが出来ませんでした。そこで、御笠郡の大庄屋高原美徳と白木原村の庄屋森山庄平が江戸時代(弘化年間1845年頃)に掘削を開始し、牛頸の北田井堰から日の浦池まで用水路を掘りました。途中藩の改革により中断されましたが、明治10(1877)年1月に森山庄平の息子であり白木原村の村長であった森山庄太によって工事が再開されました。

まず江戸時代に掘っていた北田井堰から日の浦池までの用水路の泥をさらいました。牛頸の北田井堰から三兼池までの高低差はわずか6m。池と池をトンネルや溝でつなぎ、わずかな高低差を利用して、三兼池へと水を流しました。三兼池の貯水可能量は9万6千トンだったと言われています。

水は牛頸村と協議し、農閑期の11月から3月の間に取水され、三兼池や途中の池にためました。そして、牛頸村には「水米」という通水料を支払っていました。

※猫池を通るルートはなくなり、現在は代わりにオレンジ色のルートを流れています。  
 ※塗りつぶした箇所は現在の三兼池の範囲です。

牛頸用水路全景

**道具** 現在のように大型の機械などは無かったため、工事は全て人力で行ないました。用水路は、池と池を結ぶためにトンネルが掘られています。トンネルは「たぬきぼり」という、人が中に入り、掘った土を外へかき出す方法で掘られました。土を掘るのには「くわ」などを、また土や石を運ぶのには「もっこ」を使いました。トンネルの穴の高さは大体 1 m 30cm です。当時の大人の平均身長が男性 155cm、女性 145cm と言われています。しゃがんで作業するのにちょうどよい高さだったのでしょう。



**溜井之碑 (下図左)** 上大利の三兼池に建つ石碑です。発起人の森山庄太のことや、牛頸用水路の工事費は全部で 210 円 (現在のお金に換算すると 500 万円以上) かかり、その約半分 110 円 (現在のお金で 260 万円以上) を森山庄太が、白木原村と春日村が各 40 円 (現在のお金で 96 万円以上)、残り 20 円 (現在のお金で 48 万円以上) を上大利村が負担したこと、また三つの村と周辺の村々の人々を合わせて、のべ 1 万 5 千人の人々がこの用水路の建設に関わっていたことなどが記録されています。そして、森山庄太の偉業を忘れることのないように、この石碑を明治 28 (1895) 年 3 月に建立したことも刻まれています。

**森山庄太 (下図右)** 牛頸用水路の建設に大いに尽力した人物です。天保 9 (1838) 年に筑紫郡白木原村に生まれました。明治 30 年 9 月に建てられたお墓には、17 歳で村長になり、その後さまざまな役職につき、12 回も村長を務めたこと、旧藩主から帯刀を許され、酒饂をいただいたこと、明治 27 年 7 月 4 日に 57 歳で亡くなったことなど、森山庄太に関する様々な情報が刻まれています。また、明治 27 年 7 月 10 日の「福岡日日新聞」には「故森山庄太氏略歴と遺業」としてその詳細を報じています。森山庄太は、牛頸用水路以外にも学校や神社を建立するなど、人々のために貢献しました。

(2010.9)



【参考文献】

- 『大野城市のいしぶみ』  
2004 大野城市
- 『わたしたちの文化財』  
2009 大野城市
- 『牛頸郷土史』  
2002 年牛頸郷土史発行  
委員会  
貨幣博物館ホームページ  
朝日新聞  
(2010 年 8 月 19 日朝刊)